

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495000521	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社ケア		
事業所名	グループホームみよの		
所在地	(210-0821) 神奈川県川崎市川崎区殿町 2丁目14-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年8月	評価結果 市町村受理日	平成30年1月9日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2施設目を設立し、アクティビティ「活動」「活気」を土台とし、ホスピタリティ精神を、身に着け、定義に少しでも近づけられるように、関わりに具現化されるものが「お・も・て・な・し」と、掲げて、日々重視していきます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年9月21日	評価機関 評価決定日	平成29年12月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京浜急行大師線「小島新田駅」から徒歩約8分の住宅地にあります。木造の耐火構造で3階建て2ユニットです。2階、3階に各ユニット、1階には地域交流スペースがあり、子育て世代のママのための「こどもと働く無料キッズスペース」として利用しています。

<優れている点>

介護サービスの現場の随所に職員の挨拶や笑顔が見られます。そこにはいつも利用者の笑顔があります。昼食時、利用者は職員と一緒に笑顔で食事しています。職員の介護方法選択に関する自由度がかなり広く、それだけに職員のやりがいがあります。難しい介護現場にぶつかった場合、一人で課題を抱えることなく相談し解決方法を見つけ、チャレンジすることが求められています。そのステップを全て共有することで皆の介護職技術の成長が見られています。また、地域交流スペースを活用しています。働く職員の職場環境を良くするための利用方法とは別に、地域とより密着するための利用方法を運営推進会議などで関係者と相談しています。

<工夫点>

食えることが何より楽しみな利用者のために、わざわざ新潟の美味しい米を取り寄せています。外出支援の散歩では右回りに歩くようにし、万が一外に出てしまっても右回りして戻りやすいよう工夫しています。身体拘束をしない介護について、フロアミーティングなどでの話し合いと共にワーカノートに記載して、職員自身が気付くようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	グループホームみよの2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	”笑顔があるから”のテーマで安心・安全の生活が出来るよう心がけています。「伝える・広げる・相手の身になる」を、今年の目標にかたがてしています。	「笑顔があるから」を理念としています。職員の挨拶、笑顔が、利用者の笑顔を生み出します。利用者が楽しく生活するために職員は良く話し合い、よりよい介護方法を見出す創意工夫をしています。口腔体操を日課としています。今年度の事業所の目標は職員全員で考えています。	自らの振り返り・理念のより深い共有化のために、理念や目標の掲示が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会・商店に出向き地域行事や等ホーム行事にも参加して頂き地域の方々と楽しんでいます。	町内会の夏祭りや盆踊り、老人会の催事、婦人会の花火には、参加するだけでなく、食べもの提供の手伝いなどもしています。1階にはキッズスペースがあり、子育てママ世代に働く場の提供をしています。また、地域の交流スペースとしても活用しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	等ホーム行事への参加や、認知症の方との触れ合い、話し合いで質疑応答しながら理解、支援をいただき私たちが活かされています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の開催で現状報告、研修の開催、地域連携し意見交換しています。サービスの質の向上に繋がっています。	年間スケジュールを組み、2ヶ月に1回定期的に開催しています。出席者は家族、町内会長、民生委員、地域の人、管理者、法人代表などです。会議出席者の紹介により、近隣の人の入所に繋がることもあります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者支援課の協力もありカンファレンス等での参加で金銭虐待を迅速に対応ができご利用者様や職員も安心でき、今後とも密に取っていただけるように連携を取らせていただいております。	殿町は地域柄、地元の連携が強く、昔からの住民が多い地域です。現在地域の民生委員、町内会長と連携して利用者がより近隣と密着した生活ができるよう、「老人いこいの家」、「こども文化センター」と連携を取りつつあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束廃止委員会により研修や、マニュアル作成することで、フロアミーティングにより拘束のない介護の話し合いをしています。	身体拘束をしない介護について、フロアミーティングなどで話し合っています。骨折を防ぐための切迫した拘束については、目的と期間を定め、十分観察して進めています。言葉による拘束については、職員で互いに注意し合ったり、ワーカーノートに記載して、職員自身が気付くように工夫しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修、施設内委員会での勉強会、マニュアル作成配布での情報共有。虐待についてを職員全員が理解し虐待防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講習や、年度によりいろいろ制度の変更もあり講習・研修・セミナーに参加し他の部署に繋げるよに活用し、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約に関しては手順に添って行っています。改定がある場合はご案内文の送付後個々に説明し同意をいただいています。要望の有無なく聞けるよう声かけを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回行う家族会で意見や苦情・要望を伺い迅速な対応しサービスの向上に努めています。ご利用者様の状態・情報はこまめに伝え、こまめに聞いています。	家族の希望や要望は、面会時や電話などで個別に聞いています。ゼリー食希望も聞いて対応しています。また、「母を今後在宅で看たいが、主治医の意見はどうか」などの問い合わせにも対応しています。「みよの便り」を毎月発行し、利用者の日々の生活や行事を知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議・グループホーム会議を毎月開催し、意見交換、企画提案しサービスの向上に努めています。職員から見た状況・状態を視差し、提示しています。	職員の歓迎会、暑気払いなどを開催し、職員の思いを伝えやすい雰囲気づくりに努めています。職員はLINEで介護上の気付きや思いをやり取りしています。介護に関するチャレンジ精神を重要視しています。話しやすく提案しやすい雰囲気です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1度、実績や努力に対して給与の見直しを行っています。人員不足の際は求人掲載広告を出し近隣センター支援を受けるなりし対応しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修が行われる際は必ず参加できるようにしています。他研修の案内を掲示し出席後は講師として施設内の勉強会を実施。他の施設への研修参加時間を確保し技術の向上、自己覚知に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会・協議会等の加入し研修会への参加。近隣グループホームとの交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い・要望を傾聴しご本人を理解出来るようにプランの中にも反映出来るように努め信頼関係を築き安心できるような環境作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような生活を望んでいるか、どのようにしていきたいか、要望を伺い信頼関係を築いています。特にあまりお話をされないご家族にはこちらからのきっかけ作りを多くしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族がどのような生活環境を作って行きたいのか、ご本人なりの生活スタイルはどのようにしたいのかを充分話し合いを持ち納得行くサービスが出来るよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	今までの生活環境を念頭に入れ、自立支援が出来るよう生活の中の役割を持って頂き社会の一員として共にたのしみ、悲しみを共有できるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話やFAXや面会時などご利用者様の様子の説明。急を要する問題の場合は一緒に考えて頂いています。ご家族参加の行事・誕生会には出席のお願いをし、ご利用者様に笑顔がみられる支援を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の馴染みの方々にハガキを出すお手伝いをしたり、ご自分の愛用していたものを居室に置き馴染んで頂けるよう環境作りを行っています。	天気の良い日には、散歩を兼ねて馴染みのレストランに出かける人が数人います。馴染みの美容院や馴染みの店に買物へ出かける人もいます。ハガキを出す手伝いをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を知った上でレク・ゲーム・歌・体操・散歩など同席可能かを配慮し楽しい時間の共有を図れるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族にご本人の様子伺いをしたりご相談等の対応や情報提供に努めています。記録等の開示もしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人からの情報提供で今までの生活環境や要望・希望・意向を聴き十分に把握した上で対応しています。	利用者の思いや意向を利用者の変化と共に1ヶ月かけて観察し、各ユニット間で整理しています。その内容を職員間、家族で共有し、利用者の姿を正確に把握した上で対応しています。利用者が精神的に不穏になる前に散歩や買い物に出掛けるなどの工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅からの利用者様は情報提供してもらい少しでも日常生活に近い支援を取り入れています。入院後のご利用者様は情報が著しく違うことが多い為、ご家族とのカンファレンスを持ち職員同席でその人らしく過せるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい生活歴、ルーツを把握し一人ひとりを尊重し、心身状態を見ながら、持っている力を出せるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6か月に1度介護計画の見直し、1か月に1度モニタリングを行っています。ご本人、ご家族様の意向・要望・医療関係者との話し合いなどを、ミーティングの課題にあげケアの在り方を決め援助・支援し、より良い暮らしが出来るよう目指しています。	利用者の希望、家族の意向を正確に受け取り、居室担当職員をはじめとした関係職員、医療関係者などで協議して介護計画を立てています。美味しいものを食べたいという利用者の希望には、現在の食事形態・入れ歯・口腔ケアなどと連動した計画を立て、主として3ヶ月の短期計画目標に入れ込んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月1回のフロアミーティングで日常の変化、ケアの実績、結果、気づきなど小さな事も職員で情報を共有し見直しに活かしている。ヒヤリ・ハット記録はその日のうちに原因究明、改善策を話し合い職員の連携強化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われないよう状況に応じて柔軟な対応が出来るよう出来る限り取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	商店街、近隣商店での買い物、散歩で地域の方との会話も増え町内会の盆踊り大会のお誘いなど外へ出る事への楽しみが増えています。訪問美容によるカットや、マッサージ師による硬縮予防、ボランティアなど暮らしの中にも楽しみを多く取り入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の選ばれる訪問医師で月2回の往診。医師と疎通が密に取れ、疾病のアドバイス等やカンファレンスの時間も取れ重度化に伴い対応の不安が少なくなっている。	かかりつけ医は、提携医でも今までの主治医でも選ぶことは可能ですが、現在は全員が提携医となっています。月2回の往診があり、医師、看護師、薬剤師が居室を回っています。2階と3階で日程は異なりますが、別の階でも必要に応じて診察しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診看護師との連携をとり主治医への伝達となったださり、相談がしやすく、回答を頂ける為心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは頻繁に出向き情報交換し、入居の相談にのって頂いています。入院2週間ぐらいで病棟看護師に医療計画を聴き退院時の受け入れとしてカンファレンスを希望する。GHケアマネと病院側の相談員が中心となり進めて、良い関係を築けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様とのカンファレンスを持ち、全職員が意向等、認識し支援していません。医療計画を聴き退院時の受け入れ、重度化に対し段階的に取り組めるよう、知識と経験を踏んでいます。	重度化した場合、希望があれば医師と連携し、看取りケアの用意があります。職員は隣の同法人の事業所でのケースを学びながら今後に向けて備えています。支援体制は整っていますが、実績はまだありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	意識確認から始まり研修・講習会に参加し報告、実施出来るようシュミレーションで身につけています。緊急マニュアル有		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練、夜間帯想定での訓練実施。スプリンクラー装備。地域への協力をお願い。訓練時近隣の方へ参加を求めています。非常時食料、飲料の備蓄。	火災報知器の業者が点検に来た時にテストを兼ねての避難訓練、消防署が見回りに来た時に、いきなり夜間想定訓練になることもあります。隣接の同法人の事業所内で水、食料などを合わせて備蓄しています。2階ベランダには避難階段があります。	1階の交流スペースは広さもあるので、いざという時に地域の人を迎える可能性もあります。非常用の食料などは他に依存せず、事業所として備蓄することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳とプライバシーの保護の徹底。信頼関係を築き人格の尊重を徹底し職員同士の会話にも注意し対応しています。自由な時間と空間を持てるよ心掛けています。	名前の書いてある薬袋はそのままではなく、広告の紙を折って作った袋に入れて捨て、プライバシーに配慮しています。情報提出を求められた際、個別対応ができるよう、記録も一覧にしているから個々に作成し直しています。呼び名は名前にさん付けが主となっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の作業で一人ひとりに合わせて援助しています。10時、15時の水分・おやつ等、季節に合わせて工夫をしています。外食レクも取り入れ、お好みのメニューを選び食事を楽しんで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候の良い日は散歩や買い物へ出掛けます。その人らしさを重視しペースに合わせて支援しています。入浴日は決まっていますが常に変更ができ、ご本人様の気持ちを優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時は温かいおしぼりを使用、鏡の前で整容を行いフロアへ出ます。季節の行事を多く持ち参加して頂けるようにしています。訪問美容カット、毛染め等、希望を取り入れています。ご本人様の思いを優先しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に何度かおやつ作りレクリエーションを行っています。例：ホットケーキの材料を準備・焼く・塗る・盛る等、一人ひとり出来る範囲を把握しながら分担し手伝って頂き楽しんでいます。	業者のレシピと材料を使用し、職員が手作りしています。食べることが何より楽しみな利用者のために、わざわざ新潟の美味しい米を取り寄せています。職員と一緒に笑顔で食事をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量は必ず記入する。朝食・10時・昼食・おやつ・夕食で摂取。常に把握し、少ない場合は起床、おやつ時に声掛けや介助を取り入れて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前に口内マッサージ、口腔体操を取り入れています。義歯の管理、舌下ブラシ、うがいで口臭予防をしています。訪問歯科と連携し咀嚼力が落ちないように対応しています。定期的な消毒で備品の衛生管理を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄記録表に尿量、色、排便状態をチェックし排泄パターン、体調を確認し促しています。拒否の場合は時間変更及び他の職員交代等、切り替え対応しています。	トイレのドアに大きく「トイレ」とあり、分かりやすくなっています。排泄記録表は便秘状態が2日続いたら「-2」などと表示し、本人の状態が一目で分かるようにしています。立位の取れる人は2人介助にし、自力排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝、一杯の水分、ヨーグルト、バナナ腹部マッサージ等、主治医へ相談し支持をもらっています。ラジオ体操他、運動を取り入れています。動く事が困難な方には乳製品他、飲み物等で工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴剤を使い香り色を目で鼻で楽しむ気持ちよく入って頂く工夫をしています。職員も常に声掛けをし安心できる支援を行っています。拒否の方には無理せず午後や入浴日を変える対応をしています。	入浴は週2回です。2階、3階とも専用の椅子で入れる最新式のリフトを導入しています。職員が抱きかかえて入れる必要がなく、利用者、職員双方にとってリスク回避につながっています。リフトで足湯だけすることもできます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に活動を増やし個別に就寝時間を調整し一人ひとりのリズム把握をしています。不安で眠れない方には1対1の時間をもち安心から睡眠へ繋げるよう支援しています。又、記録には睡眠時間を細かくチェックしパターンを掴めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医処方による薬を用い服用していますが副作用等で体調の変化があった場合、スタッフ全員が周知できるように記録ノートに必ず目を通すよう徹底しております。ご家族に連絡し説明し、ご理解を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	近隣の公園や玄関前、屋上での外気浴スーパーへの買い物、塗り絵、他日常の仕事(洗濯物たたみ・食器拭き他)一人ひとりに合った支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見、夏祭り等、季節に合ったレクリエーション他一人ひとりの希望にそった外出を行っています。車椅子のご利用者様も外食、買い物等に出掛けられるよう支援しています。	日常的にごみ捨てや新聞を取りに行くような機会と一緒に外に出ています。車で20分ほどの「川崎マリエン」に出掛け、展望台で開放感を味わっています。散歩では右回りに歩くようにし、万が一外に出てしまっても右回りして戻りやすいよう工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の承諾のもと自己管理可能な方は個々で所持、一人ひとりに合った管理の支援をしています。希望する物品を一緒に出掛け購入することもあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ハガキ、暑中見舞い、年賀状をご家族宛に書いています。 本人が希望とあればいつでもやり取りができるよう支援しております。 食事や家に戻る方(物品を取りに行くため)もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけは利用者様の作りあげた物や塗り絵、季節にあった作品を作り飾っています。窓にはプランターを置き育て、口に入るものを楽しみへ繋げる等、空間を工夫しております。	リビングには紅葉、ハロウィンなど季節感のあるものをさりげなく飾っています。小さなプランターでトマトやシソ、ケイトウなどを植え、水やりをし、成長を目で楽しんでいます。日中は概ねリビングで過ごしています。道路際の建物ですが室内は静かで、男性同士、女性同士での会話が弾んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにソファを配置しており、ご家族と一緒に寛げる空間を作っています。 テレビの位置等も工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持参して頂き飾る等、居心地の良い空間になるよう工夫しています。 写真や衣類他、ご家族に相談し協力を頂いています。	ベッドとエアコンは備え付けです。転倒しても大きな怪我にならないよう、居室は薄く目の細かい特殊な畳敷きです。タンスや衣装ケースなどを持ち込んでいます。家族の写真や、事業所からのバースデーカード、敬老の日の「感謝状」などを壁に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存機能を活かし、やらされている感がないように工夫しています。 トイレ等は大文字で分かりやすく表示しています。 廊下には物を置かない、見守りを重視し支援しています。		

事業所名	グループホームみよの
ユニット名	グループホームみよの 3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	”笑顔があるから”のテーマで安心・安全の生活が出来るよう心がけています。「伝える・広げる・相手の身になる」を、今年の目標にかたげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会・商店に出向き地域行事や等ホーム行事にも参加して頂き地域の方々と楽しんでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	等ホーム行事への参加や、認知症の方との触れ合い、話し合いで質疑応答しながら理解、支援をいただき私たちも活かされています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の開催で現状報告、研修の開催、地域連携し意見交換しています。サービスの質の向上に繋がっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者支援課の協力もありカンファレンス等での参加で金銭虐待を迅速に対応ができご利用者様や職員も安心して、今後とも密に取っていただけるように連携を取らせていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束廃止委員会により研修や、マニュアル作成することで、フロアミーティングにより拘束のない介護の話し合いをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修、施設内委員会での勉強会、マニュアル作成配布での情報共有。虐待についてを職員全員が理解し虐待防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講習や、年度によりいろいろ制度の変更もあり講習・研修・セミナーに参加し他の部署に繋げるよに活用し、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約に関しては手順に添って行っています。改定がある場合はご案内文の送付後個々に説明し同意をいただいています。要望の有無なく聞けるよう声かけを行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年2回行う家族会で意見や苦情・要望を伺い迅速な対応しサービスの向上に努めています。ご利用者様の状態・情報はこまめに伝え、こまめに聞いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議・グループホーム会議を毎月開催し、意見交換、企画提案しサービスの向上に努めています。職員から見た状況・状態を視差し、提示しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1度、実績や努力に対して給与の見直しを行っています。人員不足の際は求人掲載広告を出し近隣センター支援を受けるなりし対応しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修が行われる際は必ず参加できるようにしています。他研修の案内を掲示し出席後は講師として施設内の勉強会を実施。他の施設への研修参加時間を確保し技術の向上、自己覚知に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会・協議会等の加入し研修会への参加。近隣グループホームとの交流を図っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い・要望を傾聴しご本人を理解出来るようにプランの中にも反映出来るように努め信頼関係を築き安心できるような環境作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような生活を望んでいるか、どのようにしていきたいか、要望を伺い信頼関係を築いています。特にあまりお話をされないご家族にはこちらからのきっかけ作りを多くしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族がどのような生活環境を作って行きたいのか、ご本人なりの生活スタイルはどのようにしたいのかを充分話し合いを持ち納得行くサービスが出来るよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	今までの生活環境を念頭に入れ、自立支援が出来るよう生活の中の役割を持って頂き社会の一員として共にたのしみ、悲しみを共有できるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話やFAXや面会時などご利用者様の様子の説明。急を要する問題の場合は一緒に考えて頂いています。ご家族参加の行事・誕生会には出席のお願いをし、ご利用者様に笑顔がみられる支援を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様の馴染みの方にハガキを出すお手伝いをしたり、ご自分の愛用していたものを居室に置き馴染んで頂けるよう環境作りを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を知った上でレク・ゲーム・歌・体操・散歩など同席可能かを配慮し楽しい時間の共有を図れるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご家族にご本人の様子伺いをしたりご相談等の対応や情報提供に努めています。記録等の開示もしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、ご本人からの情報提供でこれまでの生活環境や要望・希望・意向を聴き十分に把握した上で対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅からの利用者様は情報提供してもらい少しでも日常生活に近い支援を取り入れています。入院後のご利用者様は情報が著しく違うことが多い為、ご家族とのカンファレンスを持ち職員同席でその人らしく過せるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その人らしい生活歴、ルーツを把握し一人ひとりを尊重し、心身状態を見ながら、持っている力を出せるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6か月に1度介護計画の見直し、1か月に1度モニタリングを行っています。ご本人、ご家族様の意向・要望・医療関係者との話し合いなどを、ミーティングの課題にあげケアの在り方を決め援助・支援し、より良い暮らしが出来るよう目指しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	月1回のフロアミーティングで日常の変化、ケアの実績、結果、気づきなど小さな事も職員で情報を共有し見直しに活かしている。ヒヤリ・ハット記録はその日のうちに原因究明、改善策を話し合い職員の連携強化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われないよう状況に応じて柔軟な対応が出来るよう出来る限り取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	商店街、近隣商店での買い物、散歩で地域の方との会話も増え町内会の盆踊り大会のお誘いなど外へ出る事への楽しみが増えています。訪問美容によるカットや、マッサージ師による硬縮予防、ボランティアなど暮らしの中にも楽しみを多く取り入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の選ばれる訪問医師で月2回の往診。医師と疎通が密に取れ、疾病のアドバイス等やカンファレンスの時間も取れ重度化に伴い対応の不安が少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診看護師との連携をとり主治医への伝達となつてくださり、相談がしやすく、回答を頂ける為心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは頻繁に出向き情報交換し、入居の相談にのって頂いています。入院2週間ぐらいで病棟看護師に医療計画を聴き退院時の受け入れとしてカンファレンスを希望する。GHケアマネと病院側の相談員が中心となり進めて、良い関係を築けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様とのカンファレンスを持ち、全職員が意向等、認識し支援しています。医療計画を聴き退院時の受け入れ、重度化に対し段階的に取り組めるよう、知識と経験を踏んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	意識確認から始まり研修・講習会に参加し報告、実施出来るようシュミレーションで身につけています。緊急マニュアル有		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練、夜間帯想定での訓練実施。スプリンクラー装備。地域への協力をお願い。訓練時近隣の方へ参加を求めています。非常時食料、飲料の備蓄。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に年配者に対する敬意を払い、信頼関係を築いた上でも一人ひとりの人格の尊重を徹底しています。職員同士の会話には特に注意し、不要に個人のプライベートに係る内容は発さないよう注意がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	10時の配茶や15時のおやつ提供時にはご本人様の嗜好を伺い選べるように工夫しております。年に数回予定している外食レクでは、レストランの複数あるメニューから、ご利用者様の希望の品を選んでいただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	天候が良い日はご本人様の希望で散歩や買い物に出かけます。また、体調に問題がなければ就寝時間が多少ずれても将棋や趣味の時間にあてる方もおられます。入浴日は一応決まっておりますが、気分に変更することもあり、ご本人様のお気持ちを優先しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時は鏡の前での整容に気を配っております。外出レクの際の衣類や持ち物はご本人様に選んでいただいております。2ヶ月に1度訪問美容カットがありますが、ご希望で本人馴染みの美容院へ行かれる方もいらっしゃいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に数回、おやつ作りのレクリエーションを行っております。何が食べたいのかをヒアリングし、買い物、準備等手伝って頂きます。餃子作りでは、具を混ぜる人、皮をまく人、焼く人と、その人のできる能力を活かし分担し協力しあいながら楽しんでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	咀嚼力が落ちないように、食事の前には口腔体操を実施しております。水分摂取量は常に記入して把握し、3度の食事で摂取が少ない場合は、起床時やおやつ時にも声掛けして水分確保に		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの徹底はもとより、義歯の管理、うがいによる口臭予防、定時消毒による備品の衛生管理にも気を配っております。週一回の訪問歯科による検診もあり、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個人の排泄記録表には尿量、色、排便状態をチェックし、一人ひとりの排泄パターンを把握しております。各自の排泄間隔に合ったトイレ誘導をし、失敗による羞恥を減らし自立に向けた支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防においては、朝のラジオ体操や、近隣の散歩など、体を動かすことを第一に取り組んでおります。運動が困難なご利用者様にはバナナや乳製品等、飲食物での予防に気をつけております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を楽しんでいただけるよう、好みの入浴剤を選んでいただいております。また拒否の方には声掛けに工夫をしたり、別の方と入浴日を変更するなど臨機応変な対応をしております。職員も介助中は歌をうたったり会話を楽しみ支援することを心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の活動量や体調に合わせて個別に就寝時間や臥床対応を調整しています。昼夜逆転ぎみのご利用者様には生活リズムが把握できるよう、時間毎のチェックリストに「傾眠」や「覚醒」など細かく記入しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	副作用等で服薬後に体調の変化があった場合はスタッフ全員に周知できるよう、専用ノートに記録し必ず目を通すよう徹底しております。必要であればご家族に連絡をし、リスク等を説明しご理解をいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	認知症の方でも楽しめるように、風船バレーボールやペットボトルでボーリングなど体が記憶しているようなレクを中心に行っております。またお皿拭きや洗濯たたみ等一人ひとりに合った役割を支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	花見や夏まつり等季節に合ったレクの他、一人ひとりのストレス発散や希望に沿った外出支援をしております。歩行困難な方でも車椅子を利用し外食にも積極的に出かけております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様のお金の所持にはご家族と相談しその人にあった管理の支援をしております。外出時はご自身で財布を持っていただきご希望の品を購入することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様から家族に連絡がとりたいとの希望があったときは、随時やり取りができるよう支援しております。直接ご家族の方と話され、美容院や食事へ行く日を決める方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけはご利用者様の意見を取り入れ、季節に合った行事や花を飾っております。窓にはプランターを置き様々な植物をご利用者様と一緒に育て、心地の良い空間を工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事のスペースはテーブルをいくつか配置し、テレビが見やすい位置や、ソファでくつろげる位置など、好みの空間でお過ごしできるよう工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の方に協力いただき、ご利用者様のなじみの家具や衣類、記念の写真等を部屋に飾るなど、心地よく過ごせることができるよう工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや洗面台などはイラストや文字で分かりやすく表示してあります。また廊下は常に物は置かないなどを徹底し、安全に気を配っております。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 グループホームみよの

作成日：平成30年1月 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		施設が狭い為、圧迫感がある。整理整頓をしても狭く感じる。	少しでも広く、有効に施設を使用出来る様に様々な情報を集める。	クローザーで置いてある物を再点検して、大切に使用出来ない物は1Fの倉庫にしまう。	3ヶ月
2		車椅子の利用者様が多くなり、外出の機会が少ない事。(1)ライクニク式で大きな車椅子の為)	天候の良い時は、少しでも外気に触れさせて。	屋上を活用して、お茶やお菓子の時に屋上で食事を、一度に9人で行い、2回に亘って外出する。	3ヶ月
3		地域交流スペースの活用について、もっと積極的に利用が出来ないのでないか！	日常の中で、地域交流スペースを利用して過ごす時間が自然に持てる様にする。	地域交流スペースを活用したイベントの数を増やして実施する。	3ヶ月
4		屋上を小さく、4Fまでお茶の為に清掃に行き帰ってこない時がある。	清潔感のあるホームにするため、常に整理整頓が出来ていく様にする。	まじ、玄関、トイレ、水まわりの清掃を毎日行う。勤帯以外のユニットを見て、汚れている箇所を把握する。	1ヶ月
5		24時間365日の仕事なので、職員が一緒に食事が出来ないか出来ぬか、おしゃべりや会議の際の集まりが良くない傾向がある。	月に1回は、すべての職員が集まる様にする。夜勤専従が多いので、日勤者との交流を持つこと。	定期的に(月末に1回)懇親会を開く。多人数に参加できる職員をいれるため、日中に行うなどの工夫をする。	1ヶ月